

② 自由記述に表われた生徒の反応（英語科）

ア. 英語学習に対する好嫌

好き、おもしろい	22人
きらい、おもしろくない	47

イ. 英語の学習に対する難易感

やさしい、やりやすい、むずかしくない	27人
むずかしい、やりにくい、わからない	104

ウ. 学習内容習得上の困難点

音声（発音、アクセント等）習得が困難	121人
発音記号がよく読めない	51
和文英訳がよくできない	211
英文和訳が思うようにいかない	146
語および連語がおぼえられない	263
文法がむずかしく、理解が困難である	121

エ. 生徒の自己反省、感懐

⑦学力に対する反省

基礎がわからない	123人
----------	------

①英語学習に対する心構え

一生けんめいがんばるつもりである	97人
------------------	-----

オ. 家庭学習

⑦必要感

予習、復習がぜひ必要であると思った	122人
-------------------	------

①家庭学習の方法上の問題

家庭学習の方法がよくわからない	175人
家庭でなにを勉強してよいかわからない	25
学習技術が未熟なため困っている	28
時間がかかりすぎる	50
勉強する気になれない。あきがる	60

カ. 英語学習に対する必要感

英語は必要、たいせつな教科である。	29人
英語は勉強したいものだけすればよい。	33

キ. 自己の能力に対する失望感

理解力、記憶力、応用力がない。	77人
-----------------	-----

ク. 高校の英語の授業に対する感想

わかりやすいので授業が楽しい	34人
もっとわかりやすく教えてもらいたい	64

5 診断的性格を帯びた福島県標準学力検査問題の作成

(1) 目的

昨年度からの継続事業として、本年度は、中学校1年英語、中学校3年の社会・理科の問題作成、それに小学校1・2年の国語の問題改訂をとりあげた。

この学力検査は、県内の学力の実態をとらえ、福

島県の規模で標準化しようと意図したものである。したがって、この検査を実施することによって、個々の児童・生徒、学級・学校の全県的な位置づけができるし、また、個々の児童・生徒の学力や、学級学校の傾向を診断して今後の学習資料とすることができる。

(2) 問題作成の経過

① 事前の研究

問題作成にあたって、まず指導要領を分析し、ペーパーテストでとらえることのできる範囲で検査領域を設定、さらに県内でももに使用している教科書の内容を調査して、検査問題の素材を整えた。

- ア. 指導要領の分析
- イ. 領域・観点の設定
- ウ. 教科書の分析

4月～6月

② 問題の作成

ア. 第一次案の作成

4月から6月末まで、上記の事前研究に併行して、第一次案を作成、学力検査審議会にかけた。

イ. 第一回学力検査問題審議会（7月13日実施）

この審議会では、問題領域や観点の設定、ならびに問題の第一次案など、主として問題内容の妥当性について検討を加えた。

なお、学力検査問題審議会の構成は次のとおりである。

○国語科部会

- 福島大学学芸学部教授 源 後 三 郎
- 福島大学学芸学部助教授 菅 野 宏
- 県教委指導課指導主事 斎 藤 正 夫
- 県教委指導課指導主事 長谷川 磐 雄
- 福島大学付属小学校教諭 村 岡 房之助

○理科部会

- 福島大学学芸学部教授 窪 田 実
- 県教委指導課指導主事 若 杉 栄
- 福島大学付属中学校教諭 後 藤 真太郎
- 福島第四中学校教諭 小 林 四 郎

○社会科部会

- 福島大学学芸学部教授 安 田 初 雄
- 県教委指導課指導主事 檜 村 五 郎
- 信夫出張所指導主事 山 内 兵 衛
- 福島大学付属中学校教諭 大 橋 睦 也

○英語科部会

- 福島大学学芸学部教授 小 川 武 二
- 県教委指導課指導主事 田 崎 宗 寿
- 福島高等学校教諭 金 子 順 一
- 福島大学付属中学校教諭 遠 藤 忠 藏

ウ. 第一回予備テスト 11月4日または5日

第一回学力検査問題審議会で決定した問題の、小問の正答率の配列が適当であるかどうかを検討し、問題の修正や補充の資料を得るために実施した。標本校は、地域類型と学校規模を考慮